日刊紙・日曜版の前進 飛躍へ全力注いで

6カ月連続前進必ず
議員先頭に全支部行動へ

埼玉県北部地区

埼玉県北部地区は、「赤旗」日刊紙、日曜版読者の6カ月連続前進をなんとしてもやり遂げようと、28、29日に「赤旗」読者の「50部拡大作戦」を提起し、全支部の行動をよびかけています。同地区は今月、26日までに、党員3人と、日刊紙11人、日曜版62人の読者を増やしています。

土日で、読者の減紙分を取り戻し前進に転じるために、17人の地方議員と地区役員が支部に入って行動を広げるけん引力の役割を果たしています。

そのなかで、現在4割台の4中総徹底で「一刻も早く」50％を超えることをめざします。

柴岡祐真地区委員長は「国民連合政府の実現のためには、国民の世論と運動を大きくすることです。肝心要の党勢をなんとしても前進させようと訴えています」と話します。地区委員長自身も支部と一緒に行動しています。27日には熊谷市の地域支部に入り、入党を働きかけました。

熊谷市では、籠原支部が今月2回目のいっせい行動をおこない、あわせて日刊紙1人、日曜版4人の読者を増やしました。長瀞（ながとろ）町と横瀬町、神川町で議員を先頭にした拡大がおこなわれ、日曜版の今月前進のめどをたてています。

4中総を学んだ支部や党員は、安倍政治を変える展望をつかみ、党勢拡大で「がんばろう」と元気になっています。戦争法廃止のスタンディングアピールで有権者に直接訴えている支部は手ごたえを感じています。対話のなかで住民から「共産党は安倍政権を倒すために頑張っている」との声が返ってきています。

全議員成果へ奮闘
新人も支部の結びつきで行動

北海道石狩地区

北海道石狩地区委員会は27日までに4人を党に迎え、4割の支部が「赤旗」読者を増やしています。

「戦争法廃止の国民連合政府」の提案と2000万署名を手に対話すると多くが署名に応じてくれます。長い話をしなくても「こういう時だから『赤旗』くらい読まなきゃ」と購読する人がいるなど、どこでも話が弾みます。

10月に続いて、「日曜版見本紙を友人に渡して購読を呼びかけましょう」という党員向けの「訴え」と見本紙を活用し、行動参加を広げる努力をしています。北広島市の市街支部は22日、10人で行動し、2000万署名58人分を集め、日曜版読者3人を増やしました。

月初めの地区議員団会議では、議員一人ひとりが年内目標と今月目標を持って読者拡大の先頭に立とうと意思統一。地域との結びつきが多くない新人議員の活動地域については、支部と議員が一緒に行動して支部の持つ結びつきを議員の結びつきに発展させられるように手だてをとりました。新人議員をはじめ7割の地方議員が読者を増やし、「全議員成果」まであと少しです。

来年4月の衆院北海道5区補欠選挙に向けて橋本みか候補がこまめに各自治体を回り、宣伝や「集い」にとりくんでいます。27日には、いわぶち友参院比例候補と森つねと選挙区候補が石狩入りし、議員や支部とともに6自治体で宣伝や懇談、「集い」にとりくみました。

日本共産党の活動
火水木土日付

10月に続いて、「日曜版見本紙を友人に渡して購読を呼びかけましょう」という党員向けの「訴え」と見本紙を活用し、行動参加を広げる努力をしています。北広島市の市街支部は22日、10人で行動し、2000万署名58人分を集め、日曜版読者3人を増やしました。

月初めの地区議員団会議では、議員一人ひとりが年内目標と今月目標を持って読者拡大の先頭に

愛知の議席必ず
すやま参院候補宣伝

すやま初美参院愛知選挙区候補は26日、豊橋市で、しもおく奈歩県議、鈴木みさ子豊橋市議、後援会の人たちとともに宣伝しました。

すやま候補は、「戦争法廃止の国民連合政府」の実現を訴え、「改選数4の愛知選挙区で必ず議席を」と決意を表明しました。しもおく県議は、「ブラック企業や大学の学費など、若者に負担を押し付け、さらに戦場へ送ろうとする安倍政治は許さない。すやま初美候補を国会へ」と訴えました。

多くの人が手を振って応援。通りかかった女性が2000万署名に協力しました。赤ちゃんを抱いて演説に聞き入る女性の姿もありました。

2000万署名に応じる女性と対話する（左から）しもおく県議、鈴木市議と、訴えるすやま参院選挙区候補＝26日、愛知県豊橋市

「力になるなら読みましょう」
政権に怒り 初購読も
松田一志山口選挙区候補訴えに

山口県の松田一志参院選挙区候補は、県内各地を訪ねて、「国民連合政府」実現と参院選での党の躍進を訴えています。

23日は終日、岩国市で各支部、議員と地域を訪ね、5人の「赤旗」日曜版読者を増やしました。

由宇支部、坪田恵子市議との行動では、12軒を訪問しました。「松田さん、がんばってください。力になるならしばらく読みましょう」と初めて読者になった人や、「安倍政権になって、イヤな世の中になったね。戦争に突っ走っている感じがする。新聞も久しぶりに読みましょう」と購読した人、日曜版の見本紙を手にとって、「ああ、おもしろそうじゃね」と快諾した人など、3人が読者になりました。

松田候補は19日から21日の3日間、各地で街頭演説を行いました。地元の党市議が驚くほど反応がよく、多くの人が車内や歩道から手を振ってくれました。宇部市では、足を止めて演説を聞いた人が「赤旗」を購読し、美東町では昼食で立ち寄った店の店主が、「がんばってほしい」と読者になりました。

29日には、岩国市で真島省三衆院議員を迎えた演説会を開き、松田候補も弁士を務めます。「他党支持者から『今度はどうしても民主党、共産党、社民党が共同してたたかってほしい』という声も寄せられています。『提案』の実現、参院選の躍進へ全力をあげたい」と松田候補は語ります。

選挙勝利へ「赤旗」増やしたい
京都・伏見区
今月８人読者拡大
醍醐団地支部長 奥田実さん

京都市伏見区の醍醐団地支部の支部長、奥田実さんは11月、「赤旗」日曜版読者を８人増やしています。

奥田さんは、団地自治会の活動に設立時から参加し、家賃減免などの生活相談や浴槽などの設備改善運動に奔走してきました。そのなかで結びついた人に「赤旗」をすすめています。

西野佐知子市議とともに訪れた母子家庭の家では、「来年２月には京都市長選、７月には参院選があります。共産党は企業献金や政党助成金を受け取らず、みなさんに力を貸してもらって選挙をたたかっています」と訴え、40代の母親が初めて読者になりました。購読した８人の他にも、２人が来年からの購読を約束しています。

「選挙勝利のためには、まだまだ『赤旗』読者を増やさなければ」と話す奥田さん。29日にも馬場紘平府議とともに行動する予定です。

学生入党
滋賀学生集合支部

滋賀県の学生集合支部は25日、志位和夫委員長の横浜での演説ＤＶＤを見る「集い」を開き、参加した民青同盟員の女子学生を党に迎えました。

女子学生は11月に民青同盟に加盟したばかりです。「戦争法案に反対だ」と語る女子学生に、知人の党員が民青を紹介しました。「赤旗」日刊紙は両親のすすめで、以前から購読していました。

支部は４中総決定と幹部会決議の討議を力に、戦争法廃止の街頭行動を続け、２０００万署名を集めています。毎週の支部会議で、「綱領・古典教室」の学習も続けてきました。

「集い」は石黒良治県書記長の援助を受けて開き、ＤＶＤを視聴後、感想を出し合いました。支部の学生たちは「民主主義を守るために、党が国民の声を真剣に受け止めて、採決後すぐに『国民連合政府』を提案したことがすごい」「アベノミクスで就職しやすくなると言う人がいるけど、そんなこと全然ない。トリクルダウンは完全に失敗している。戦争法廃止の一点で世論を広げるためにがんばっていきたい」など、語り合いました。

女子学生は、「政治の誤りは政治で変えられる。そのためには世論を動かすことが大事だと思いました。共産党が選挙協力をして本気で安倍政権を倒したいと思っていることが、国民に伝わるといいと思います」と語りました。

さらに支部長の提起で、以前「赤旗」に掲載された集団的自衛権の特集記事を学習しました。「ひどいことがやられてしまった。もっと支部をパワーアップさせなければ。ぜひ入党してください」と訴えると、女子学生は「今日がそのタイミングだと思います」と答え、拍手で迎えられました。

政治の誤りは政治で変えられる

いっせい行動６人購読
高知・四万十市
「野党はがんばって」と応援も

高知県の四万十市委員会は25日、いっせい行動にとりくみ、６人の「赤旗」日曜版読者を増やしました。２０００万署名と12月の演説会参加を呼びかけるとともに、入党と「赤旗」の購読を訴えました。

行動には５人が参加し、知り合いや支持者などを訪問しました。岡本和也市委員長と谷田道子市議の訪問では、「今の安倍政権は怖い」の声が多く寄せられました。「なんとかせんといかんと思っているが、どうしたらいいか」と言う人に、「共産党は、野党で共闘して戦争法廃止の『国民連合政府』の樹立を呼びかけています。ぜひ、応援してほしい」と入党と「赤旗」購読を訴えました。「野党にがんばってもらいたい」などの声が返り、初めて日曜版を購読する人もいました。

署名を断る人はほとんどなく、署名用紙を預かってくれた人もいました。

同市委員会は、幡多地区委員会が呼びかけた「２０００万署名と党勢拡大の幡多行動」（21～25日）の提起に応え、22日と23日には、地域の祭りにあわせて街頭で署名を訴え、２５０人以上の署名を集めました。

市委員会で決めた署名目標の達成に向けて取り組みを広げつつ、今月の党勢拡大の前進に向けて、13ある支部の支部会議に入って、個別に連絡も取りながら行動の具体化へ援助を進めています。

「国民連合政府」へ 署名広く
東京・葛飾区 柴又支部がつどい

東京都葛飾区の柴又支部は22日、「戦争法廃止の国民連合政府をめざす柴又のつどい」を開き、22人が参加しました。（写真）

和泉なおみ都議は、安倍政権が憲法９条を破って「戦争できる国」にする戦争法を強行したことを批判。強行後も同法の廃止を求める国民の運動が続き、「野党は共闘してこの戦争法を廃止してほしい」との声が強まっていることをあげ、これを成功させるためにも同法の廃止をめざす2000万署名を地域でも大きく取り組んでほしいと訴えました。

参加者は、署名用紙を持って「しんぶん赤旗」読者や知人に署名を勧めようなどと発言。「『戦争法廃止を求める署名をお願いします』と書いた画板を持って、柴又駅と高砂駅前に立っている。今日までに200人が署名に応じてくれた」と語る男性もいました。

署名の月目標決め行動
大分・津久見市
津久見北支部
90歳の支部員も25人集め

大分県南部地区の津久見北支部（津久見市）は、戦争法廃止の２０００万署名の目標を月ごとに決め、目標達成に向けて足を踏み出しています。

支部会議は、毎週開いています。「戦争法案阻止・党勢拡大大運動」では、党員、「赤旗」読者拡大目標（党員１人、日刊紙１人、日曜版３人）を達成し、読者数を減らさず維持してきました。

戦争法廃止を話し合った支部会議では、２００万署名のとりくみを論議。支部の署名目標を１０００人とし、毎週の支部会議のあとに１時間２組で行動することや、支部員一人ひとりが独自に署名を集めることを決めました。

24日の支部会議では、３年前の入党以来、毎回支部会議に参加している90歳の支部員が自分の家のまわりから25人の署名を集めたことを紹介し、参加者が勇気づけられました。１２０人の11月目標達成まであと11人となっています。

（津久見北支部　伊藤忠男）

通勤する人に「提案」を宣伝
奈良の後援会

奈良県労働者後援会とＪＲ奈良電車区後援会は26日、ＪＲ平城山（ならやま）駅（奈良市）で、通勤者やＪＲ職場（関連会社も含む）に出勤する人たちに向けて、党の「国民連合政府」の提案を知らせる宣伝行動を行い、「近畿民報」を丁寧に手渡しました。（写真）

いずみ信丈参院奈良選挙区候補は、「平和と暮らしを守るため、立憲主義と民主主義の回復が世論の声として広がっている。二度と悲惨な戦争をしないためにも、国民連合政府を作り、戦争法を国会の場で廃止したい」と力強く訴えました。

この行動には、山口ひろし市議も参加しました。

12月24日には、奈良県王寺町のＪＲ王寺駅前で「２０００万人署名推進、クリスマスイブ宣伝」を計画しています。

（奈良県労働者後援会事務局次長　永井弘之）